

文理工医农林师等类专业适用教材
专业技术人员日语水平考试参考用书

日 語

下 冊

周炎輝 主編

一般語學としての日本語教科書
分かりやすい日本語能力
試験の参考書

すぐに役立つ 自修できぬ
新しい日本語の教科書
志 家 出 版 社

文理工医农林师等各类专业适用教材
专业技术人员日语水平考试参考书

日 语

下 册

周炎辉 主编

气象出版社

内容提要

本书是供文理工医农等各专业使用的新教材,可以作专业技术人员参加职称晋升日语水平考试的参考用书,还可以作成人教育用书。本书精选2800个左右最常用的词汇,精选语法内容和规范的课文。本书还有如下特点:一、各专业通用,其内容覆盖了周炎辉主编的理工科日语教材。二、本书上册可以作180学时用的零起点大学日语(第一外语)教材,并可以作中级专业技术人员参加职称晋升日语水平考试的参考用书;从语音部分至第21课可以作为大学日语(第二外语)教材;上下两册可以作280学时用的教材,并可作高级专业技术人员参加职称晋升日语水平考试的参考用书。三、编排了各种题型的练习,可以适应各种考试;并编有两套供中级职称考试用的自测题和两套供高级职称考试用的自测题。四、书末附有参考译文、练习答案和试题答案,便于自学。

目 次

第 28 课	1
课 文:機械との共存	1
实用会话(9):口座を作る	2
语 法:一、句间联系	5
二、阅读指导(七)	7
第 29 课	14
课 文:生産のしくみ	14
实用会话(10):部屋を借りる	15
语 法:一、句群	17
二、阅读指导(八)	19
第 30 课	23
课 文:具象以前	23
实用会话(11):ホテルの予約	25
语 法:一、段落的分析	27
二、阅读指导(九)	28
第 31 课	32
课 文:案内者	32
实用会话(12):航空券の予約	34
语 法:一、文章大意与中心思想	37
二、阅读指导(十)	38
第 32 课	43
课 文:青い時間	43
实用会话(13):アパートさがし	45
语 法:一、主题	47
二、阅读指导(十一)	48
第 33 课	52
课 文:オームの生誕地を訪ねて	52

实用会话(14):求職の面接	53
语 法:惯用型知识一 概述	56
第 34 课	60
课 文:登山三分法	60
实用会话(15):朝晩のあいさつ	62
语 法:惯用型知识二 修饰惯用型剖析示例	65
第 35 课	72
课 文:抗議する義務	72
实用会话(16):料理の注文	73
语 法:惯用型知识三 补助惯用型剖析示例	75
第 36 课	79
课 文:化学と生活	79
翻译要领:一、概述	82
二、词义的选择及引伸	83
第 37 课	88
课 文:ミツバチのダンス(上)	88
翻译要领:一、增词和减词	91
二、词序的颠倒	93
第 38 课	96
课 文:ミツバチのダンス(下)	96
翻译要领:一、成分的转换	99
二、长句短译	100
第 39 课	105
课 文:総合練習例	105
综合题的解法	107
第 40 课	113
课 文:生物学と読書	113
第 41 课	116
课 文:閉ざされた言語	116

第 42 课	119
课 文: 翻译文化	119
高级阶段自测题(一)	123
高级阶段自测题(二)	130
附 录	137
课文译文	137
课外读物译文	182
练习答案	196
总词汇表	233

第 28 課

本 文：機械との共存
実用会話(9)：口座を作る
文 法：一、句間联系
二、阅读指导(七)

本 文

機械との共存

今日の社会では、機械と人間にかかわりのある問題が非常に多くなっている。日常生活を脅かす公害問題や交通事故の問題などもそれである。これらの問題は、どれも複雑な社会のしくみと関連していて、簡単に解決できるというものではない。公害問題は産業や経済と深く結び付いているし、交通の問題は、都市と農村とを問わず、今日の生活から切り離すことができない。つまり、現代の社会は、機械によって高度の文明を実現しながら、その反面、好ましくない、多くの矛盾を抱えているのである。したがって、機械と人間との関係について、ここで根本的に考え直してみることは、意味のあることである。

現代の社会で重要な役割を果たしている機械も、決して突如として生まれてきたものではない。考える能力と造る能力とがあり、積極的に環境を変えようとする意欲を持った人類は、簡単な道具からより複雑な装置をくふうし、次第に機械らしいものを考えていった。車輪・テコ・歯車・ポンプのたぐいがこれである。いったん発明された機械は、その進歩が速い。ことに蒸気機関のような動力を出す原動機が発明されてからは、機械の威力は決定的なものとなった。そして、機械の性能が高まるにつれて、人間のいろいろな機能と関連し、その機能を代用するように

なってきた。たとえば、電話は耳に、自動車は足に、といったぐあいである。人間の持つ複雑な精神活動を別にすれば、機械は、人間の能力の限界を突き破り、可能性を大幅に延長したといえよう。

しかし、初めは人間に奉仕する忠実な召使であった機械が、逆に人間を巻き込んで活動し始めた。機械は人間が創造したものであったが、後には、人間は機械なしには生きられなくなり、機械との共存を強いられることになった。そして、さらに機械は、人間に今までとは違った生活態度を要求するほどになった。たとえば、疲れたとき眠くなるということは、人体の健康を保つための生理であるが、自動車を運転している人にとっては、眠くなるということは最も危険な状態なのである。このように、自然の生活の中で長い間かかって作られた人間の適応性というものが、身体のおしくみから生活態度に至るまで、機械との共存によって変化させられることになったのである。

現代社会は、こうした意味で、機械文明との新しい調和を考えなければならない時期に来ているのである。

(石森延男編「中等新国語」三)

実用会話(9)

口座を作る

A: いらっしゃいませ。

B: 新しく口座を開きたいんですが。

A: はい、この用紙にご住所とお名前、電話番号をお書きください。

B: これでいいですか。

A: はい、結構です。ご印鑑をお願いします。

B: はい、どうぞ。

A: ご入金はいくらでしょうか。

B: 普通預金の利息はいくらですか。

A: 利息は年率 1.5パーセントです。

B: では、三万円をお願いします。

A: はい, 承知いたしました。今通帳を作りますから, そちらでしばらくお待ちください。

新 出 語

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1 き かい[機械] | (名) 机械, 机器 |
| 2 きょう そん[共存] | (名・自サ) 共存 |
| 3 かかわり[係り] | (名) 关系 |
| 4 にち じょう[日常] | (名) 日常 |
| 5 おびやかす[脅かす] | (他五) 威胁 |
| 6 しくみ[仕組(み)] | (名) 结构, 构造 |
| 7 かい けつ[解決] | (名・他サ) 解决 |
| 8 さん ぎょう[産業] | (名) 产业 |
| 9 のう そん[農村] | (名) 农村 |
| 10 とう[問う] | (他五) 问, 提问 |
| 11 きりはなす[切り離す] | (他五) 割裂, 分开 |
| 12 こう ど[高度] | (名) 高度 |
| 13 このましい[好ましい] | (形) 令人喜欢的 |
| 14 む じゅん[矛盾] | (名) 矛盾 |
| 15 かかえる[抱える] | (他一) 抱, 拥有 |
| 16 したがって[従って] | (接) 因此, 从而 |
| 17 こん ぽん てき[根本的] | (形动) 根本上 |
| 18 はたす[果たす] | (他五) 完成 |
| やくわりをはたす[役割を果たす] | (词组) 起作用 |
| 19 とつ じょ[突如] | (副) 突然 |
| 20 せつ きょく てき[積極的] | (形动) 积极 |
| 21 い よく[意欲] | (名) 意愿, 热情 |
| 22 そう ち[装置] | (名・他サ) 装置, 装备 |
| 23 どう ぐ[道具] | (名) 工具 |
| 24 しだいに[次第に] | (副) 逐渐 |
| 25 しゃ りん[車輪] | (名) 车轮 |
| 26 テコ | (名) 杠杆 |
| 27 はぐるま[歯車] | (名) 齿轮 |
| 28 ポンプ[pump] | (名) 泵 |
| 29 たぐい[類] | (名) 一类 |
| 30 いっ たん[一(旦)] | (副) 一度, 一旦, 如果 |
| 31 ことに[殊に] | (副) 特别 |

32	じょう き き かん[蒸気機関]	(名)蒸气机
33	げん どう き[原動機]	(名)动力机械
34	い りょく[威力]	(名)威力
35	けつ てい てき[決定的]	(形动)决定性的
36	せい のう[性能]	(名)性能
37	たかまる[高まる]	(自五)高涨
38	き のう[機能]	(名)机能
39	だい よう[代用]	(名・他サ)代用
40	ぐ あい[具合]	(名)情况
41	せい しん[精神]	(名)精神
42	つきやぶる[突き破る]	(他五)突破
43	おおはば[大幅]	(名・形动)大幅度
44	えん ちょう[延長]	(名・他サ)延长
45	ほう し[奉仕]	(名・自サ)服务
46	ちゅう じつ[忠实]	(形动)忠实
47	めしつかい[召使]	(名)奴仆
48	まきこむ[巻き込む]	(他五)卷入
49	しいる[強いる]	(他一)强迫
50	よう きゅう[要求]	(名・他サ)要求
51	ねむい[眠い]	(形)困倦, 思睡
52	けん こう[健康]	(名・形动)健康, 健壮
53	たもつ[保つ]	(他五)保持, 维持
54	せい り[生理]	(名)生理
55	てき おう せい[適応性]	(名)适应性
56	しん たい[身体]	(名)身体
57	いたる[至る]	(自五)至, 到
58	へん か[変化]	(名・自サ)变化, 改变
59	ちょう わ[調和]	(名・自サ)调和, 和谐
60	こう ざ[口座]	(名)户头
	こうざをつくる[口座を作る]	(词组)开户头
61	ひらく[開く]	(他五)开, 敞开
62	よう し[用紙]	(名)格式纸, 规定用纸
63	ばん ごう[番号]	(名)号码
64	いん かん[印鑑]	(名)印鉴
65	にゅう きん[入金]	(名・自サ)进款, 收入钱款
66	よ きん[預金]	(名・自他サ)存款
67	り そく[利息]	(名)利息
68	ねん りつ[年率]	(名)年利
69	つう ちょう[通帳]	(名)折子, 存折

本文の注釈

1. たとえば、電話は耳に、自動車は足に、といったぐあいである。/例
如，电话代耳，汽车代步。
“電話は耳に，自動車は足に”中省略了动词かわる。
2. 後には，人間は機械なしには生きられなくなり，…/后来，人没有机
器就不能生活了……
“なし”是文语形容词的终止形，“機械なしには”相当于口语的“機械
がなくては”。文语形容词的形态变化有六种，“なし”的变化是：未然
形なく（なから），连用形なく（なかり），终止形なし，连体形なき（な
かる），已然形なけれ，命令形なけれ。

文 法

一、句间联系

一篇文章是由许多句子组成的，上句与下句之间一定存在着意义上的联系。只有正确认识这种联系，才能准确地把握全文的意思。

句子与句子之间的联系，通过下述两种手段来体现：

（一）通过接续词语，包括接续词、副词、惯用型等。例如：

自然界をいろいろ緑の正体は、植物の葉である。つまり、日本人が「自然のいろは？」と聞かれて、まっさきに緑を思い浮かべるのは、日本の山野にいかに植物が多いかの表れである。さらに青を思い浮かべるのは、晴れた日の空の色が美しく、また、地上にきれいな水が豊富にあることを表している。そして茶色は、いうまでもなく土の色である。

上面这一段文字共四个句子。第二句开头用了接续词つまり，表示这一句是对上句的补充说明。第三句开头用了副词さらに，表示这一句与上句是递进关系。第四句开头用了接续词そして，也是表示递进关系。再如：

ハンスは実際に考えたり，数をかぞえたりできるように思われました。しかし，この委員会の発表のすぐ後に，ほかの科学者が真相を見つけました。

这两句之间用了接续词しかし，表示转折关系。

通过重复同一词语或有关词语，来进行意义上的衔接。例如：

この人は「ハンス」という名のウマを訓練して，算術の問題に答えることができるようにしました。ハンスは前足で正しい答えの数だけ地面を

たたくことができました。ハンスは「かしこいハンス」とよばれるようになりました。ハンスは…。

日本人の生活は、昔からすべてにわたって植物への依存度が高かった。家屋は木材を使って建てられている。衣料では、麻や木綿のような植物繊維がはなはだ重要な材料となっている。食生活についても同様である。農耕が日本人の暮らしの中心になったことも、その結果として当然であった。

通过こそあど系词汇, 特别要注意こ系列和そ系列的几个词。例如:

容器に水を入れて静かにしておくと、水面はまったく平らになる。この容器を動かしたりかたむけたりすると、水はゆれたりこぼれたりするが、しまいには平らな水面をつくって静止する。

・よく歌の文句にも「山紫に水清く」などという言葉が登場するが、「水清く」はよいとして、山が紫とはどういうことであろうか。それは、山肌をおおっている植物の緑の上に、もう一つ別の要素が加わることを示している。

通过特定的句式。例如:

わたしは本を読む。弟は絵を書く。(句式为:…は…は)

日常生活においても、われわれは、合成皮革のくつなどの表面が、ほこりでよごれやすいことに気がつく。その材料であるプラスチックとちりの粒子とが摩擦によって帯電し、引力をおよぼしあうからである。(句式为:…からだ)

数学の成績もいい。日本語もじょうずだ。(句式为:…も…も)

(二)通过意合, 即从意义上来看上下句之间有因果、条件、并列、补充等等关系。例如:

系の先におもりつけ、水そうの水にひたす。分度器を使って、系が水面とどんな角度にあるか調べてみる。(两句是顺承关系, 第二句前本可以出现そして之类的接续词, 但不用也能从文意上看出来。)

雨が降ってきた。かさを持っていない。急いで走りだした。/下起雨来了, 没有带伞, 就赶快跑起来。(第一、二两句间是逆接关系, 可以有しかし一类词。第二、三两句间是顺承(因果)关系, 可以有そこで一类词。)

句与句之间的联系, 大致可以分为如下几种:

1. 顺承。即上下句间是顺着承接的。常用的接续词语有: だから, したがって, それで, そのため, それだけに, そして, それから, すると, かくて, その結果…。例如:

…「天文学対話」という本のなかには、慣性の法則をもとにして、地動説にたいする上の反対論が、けっして大地の不動を示すことにならないと力説されている。そのため, ガリレイは、ローマ教会の怒りにふれて宗教裁判にかけられ、不遇な晩年をおくったが、それでも「地球は動く」という考えをすてなかった。

2. 逆接。即上下句之间是转折, 让步等关系。常用的接续词语有: しかし,

けれども、だが、ところが、それにしても、そうかといって、にもかかわらず、とはいうものの…。例如：

これらの知識は経験から得られたもので、「なぜそれが正しいか」という理由は示されていないかった。しかし、いろいろな図形の性質のなかには、簡単なものと複雑なものがあり、簡単なものから複雑なものを理論的に説明できる場合のあることが、しだいに人々に気づかれてきた。

3. 并列与递进。即上下句是并列关系。或一层进一层的关系。常用的接续词语有：また、そして、同時に、そのうえ、それに…例如：

3 図(a)のように、中央がややもりあがった容器に液体を滴たし、これにあわを入れた器具を使うと、あわの動きから、台や地面が水平であるかどうかを調べることができる。また、U字管の2つの水面を見通して、同じ高さであるかどうかを知ることができる。

4. 选择与对比，常用的接续词语有：それとも、あるいは、または、むしろ、一方、そのかわり、それに対し…。例如：

海へ行こうか。それとも、山へ行こうか。/到海滨去，还是上山去呢？

5. 补充。即下句补充说明上句。常用的接续词语有：つまり、すなわち、というのは、ただし、例えば…。例如：

かすみのような現象によって、植物の鮮やかな緑が、くすんだ紫色に変えられる。つまり、本来の鮮やかな色彩が和らげられるわけである。

6. 归结。用以作总结、归纳。常用的接续词语有：要するに、このように、つまり、以上述べたごとく、前に述べたように…。例如：

おもりをつけた系の示す方向を鉛直線といい、上の実験でわかるように、広い水面は、いつも鉛直線と直角になっている。このように、鉛直線と直角になっている水面を水平面という。

7. 转换，即用以转换话题。常用的接续词语有：さて、ところで、では、ときに…。例如：

文法の説明はこれで終わりました。では本文の説明に移ります。/语法讲解就到这里为止，下面开始讲解课文。

二、阅读指导(七)

上一课谈到，经过一定的阅读训练以后，当我们读主从句时，读到从句就能推测主句；读并列句时，读到前一分句就能推测后一分句。读一个复合句是如此，读一段文章也是如此。经过一段训练，有了一定功力以后，往往读完一个句子，就能猜到后一个句子将要说些什么。

训练仍然要从精读开始，首先要牢记上面谈到的表示句与句之间的联系的两类形式，和句与句之间存在的七种意义上的联系。阅读时读完一句要停下来想一想，再读下面一句。久而久之，我们的阅读速度就快了。

在阅读的过程中，我们特别要注意那些接续词语、相关词语、こそあど系

词汇、特定の句式以及意义上的暗合等。例如：

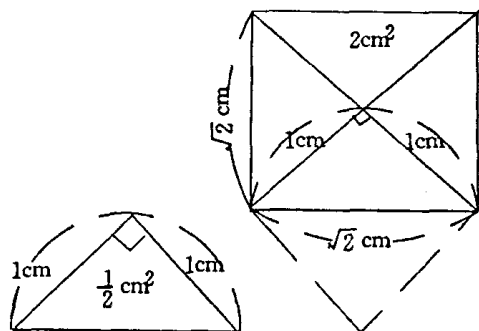
日本列島の自然は、どんな特色をもっていたであろうか。また、(读到这里我们就得到了一个信息，估计出下面可能出现一个与上句并列的句子) その自然は(从その和特定の句式…は…は又得到了进一步的信息。)日本人の生活様式やものの考え方に、どのような影響を与えてきたであろうか。

練習

一、次の文章を読んで、その中の「つながりを示す言葉」の下に線を引きなさい。

無理数の話

直角をはさむ辺の長さが1cmである直角二等辺三角形の面積は $\frac{1}{2}\text{cm}^2$ である。この三角形を、図のように4つ合わせると正方形ができて、その面積は $\frac{1}{2}\text{cm}^2 \times 4$ 、すなわち 2cm^2 となる。したがって、この正方形の1辺の長さを表す数は“2乗すると2になる数”である。この数はまた、1辺が1cmの正方形の対角線の長さを表す数でもある。この“2乗すると2になる数” $\sqrt{2}$



はどんな数でも表すことができない。

このような無理数が存在することを発見したのは紀元前6世紀末のギリシアのピタゴラス学派である。このような数が、正方形の対角線のようなありふれた図形に存在することは、かれらをおどろかせた。かれらは、無理数を「いうことのできないもの」として、数としてあつかうことをしなかった。また、「いうことのできないもの」は秘密にしておかなければならないと考え、この大発見にもかかわらず、世の中に発表しないことにしたといわれている。

その後、 $\sqrt{3}$ や $\sqrt{5}$ など無理数であることが発見され、ソクラテスがそれにたいへん感心したことをプラトンが書き残している。

いっぽう、古代インドの数学者たちも、2次方程式を解くときに無理数に出あったが、かれらは無理数と有理数のちがいにはあまりこだわらず、無理数も有理数と同じように数としてあつかった。

このようなインド人の代数学がアラビア人に伝わり、ギリシアの幾何学とともにヨーロッパへ伝えられ、現代の数学へ発展していったのである。

注 釈

- 1 1 辺が1cmの、译作“一边为 1cm 的……”，这个的的作用相当于である。
 - 2 ピタゴラス[Pythagoras] (名)毕德哥拉斯(人名)
ピタゴラスがくは[Pythagoras 学派] (名)毕德哥拉斯学派
 - 3 ありふれる[有り触れる] (自一)常见的(常接た)
 - 4 …を…にしておく (补助惯用型)把……当作
了……
 - 5 …にもかかわらず (修饰惯用型)尽管……却
……
 - 6 ソクラテス[Sokrates] (名)苏格拉底(人名)
 - 7 プラトン[Platon] (名)柏拉图(人名)
 - 8 インド[India] (名)印度(国名)
 - 9 であう[出会う] (自五)碰到
 - 10 こだわる (自五)拘泥
こだわらず 不拘泥
 - 11 アラビア[Arabia] (名)阿拉伯
 - 12 …とともに[……と共に] (修饰惯用型)与……一起
- 二、次の本文につづく第二部分と第三部分を読んで、あとの問に答えなさい。

[A]、人間の身体は生物として発達してきたものであるから、その機能は、ひと言でいえば、生活のための機能と種の保存のための機能であるといえる。そうして、生活のための機能を、その働きのうえから分類してみると、大きく二つに分けられる。一つは、運動するための筋肉的な働きであり、一つは、感覚・記憶・判断などに関係する神経的な働きである。機械は、本来人間の生活のための機能を助ける目的で考え出されたものであるから、この分類は、機械にも当てはまる。すなわち、動力型の機械は筋肉の働きの、通信・情報型の機械は神経の働きの該当する。

動力型の機械と情報型の機械とは、必ずしも並行して発達したわけではなかった。たとえば、十五世紀には印刷機が発明され、情報を伝達するうえ

で大きな変革を起こしたが、これに比べて動力型の機械にはまだ見るべきものがなかった。しかし、十八世紀になって蒸気機関が発明されると、これを応用して汽車や汽船が造られ、さらに各種の産業機械が次つぎに開発された。これらの動力型の機械の急激な発展をもとにして、第一次産業革命が起こり、それは社会で働く人びとの組織や生活を大きく変えていった。

[B]、十九世紀の終わりごろには、電気技術が発達し、動力型の面ばかりでなく、情報型の技術にとっても好都合な手段を与えることになった。そのころまで交通手段に依存していた通信の方法が、有線・無線の通信技術の発明によって初めて独立した。ことに無線通信は国境を越え、海を渡って通信をかわす手段を人類に与え、社会生活に大きな影響を及ぼした。そして、徐じょに世界にまたがる情報網ができ、さらに今世紀にはいって放送網が地球上を覆うに至った。この事實は、人類社会に社会組織ができたようなもので、地球のすみずみにまで感覚を身につけ、一民族・一国家のことだけでなく、人類全体について考える力を持つようになってきた。

[C]、人間は、伝達された情報について、それを記憶したり、それに判断を加えたりする情報処理の能力を持つが、その能力には限界がある。電気通信の技術が発達して、いろいろな情報を得ることができても、それを処理するのに非常に時間がかかったり、誤りを犯したりする。たとえば、ある科学的理論ができ、それに従って計算すればいいとしても、その計算に大変な時間がかかるので行き詰まるようなことが多い。この人間の頭脳の限界を破るために、電子計算機と呼ばれる、高速で正確な情報処理のための機械が生まれたのである。昔、円周率の計算を一生かかって七百けたまでした人があったが、今では、機械が数時間で一千けたも計算する。また、人間の頭脳は一度に多方面のことを考える能力が弱い、電子計算機はそのような場合にも正確に処理することができる。

このような情報処理のための大型機械は今後ますます発達するであろうが、これが、政治・法律・経済から教育に至るまで、およそ情報処理に関係するすべてのものに影響を与えることは明らかである。第一次産業革命が動力型の革命であったのに対して、電子計算機の出現による第二の技術革新は、情報型の革命といってよいであろう。今日の「情報時代」ということばは、そのことを端的に表わしているのである。

わずかに百年ぐらゐの間に、機械の動きは、動力的には巨大化し情報的には著しく精密化した。人類の歴史の中で、これほど大きな変化と発展をみせたものは、機械のほかにはない。それに比べて、最も変化していないのは人間自身である。人体の基本的構造は、原始時代と大差はない。したがって、人間と機械の共存する現代の生活に、種種の矛盾や未熟なところがあるのはやむをえないことかもしれない。

生来人間の持っている欲求は、それが適当であれば生活意欲を高めるの

に役立つが、機械と共存するときには、ひとりの力が千倍にも万倍にもなるから、意欲が著しく拡大される結果となり、ともすると破局につながることもなる。近代の戦争はそのような例で、機械と機械との戦いの中に人間が巻き込まれるという無惨な様相を示している。また、経済的な競争にしても、機械の力によっていっそう激しくなり、公害とか交通事故とか不慮の災害など、人間生活に不利なことをもたらすことが多く起こるようになった。

〔D〕、機械を含む巨大な組織の中では、個人の力はあまりに弱く、機械に人間が圧倒されてしまうのではないかという不安も生じる。機械は、人間のようになんでもできるものではないが、一つ一つの機能を取り出して比べると、馬力の点でも速度の点でもはるかに人間にまさっている。したがって、高能率な機械化が進むにつれ、人間は次第に片すみに追いやられ、極端な場合には機械の一部にすぎないような単純作業を課せられるようになる。そこに、人間性の疎外という問題も生じる。

〔E〕、現代の社会は、もはや機械を無視しては考えられない。とすれば、いかにして、機械との共存を合理化し、そこに新しい調和を見いだすかが、今後の課題となる。

急激に巨大化した機械文明は、まだ若く、粗暴であるといえよう。われわれの目標は、この若く粗暴な文明を、平和で思慮深い文明に変えていくことだと思う。今までの歴史では、悪い結果が予測できず、やってみては直していくという試行錯誤が多かった。〔F〕、機械と人間の共存する社会では、試みた結果が取り返しのつかない大事件になる可能性が多いから、できるだけ先を予測し、事前にそれを阻止する態度を強めることが大切である。予測するための情報処理をする機械は、今後ますます進むであろう。しかし、そのような機械をどのように使い、どのような決定を下すかは、結局人間である。ここに、広い視野を持ち、正しい判断を下し、強い意志と勇気を持った人間が必要となってくる。

機械と人間との問題は、政治家や科学者・技術者だけの問題ではなく、現代の社会に生きるすべての人びとの課題であるといえよう。

注 釈

- | | | |
|---|---------------|------------------|
| 1 | あてはまる [当てはまる] | (自五)正好相当 |
| 2 | がい とう [該当] | (自サ)正相当,正合适 |
| 3 | 必ずしも…ない | (呼应慣用型)不一定…… |
| 4 | 見るべきもの | (词组)值得看的東西,显眼的東西 |
| 5 | こう つ ごう [好都合] | (形动)合适的 |
| 6 | またがる | (自五)橫跨 |